

## 概況 横這い状況ながら一部持ち直しの動き

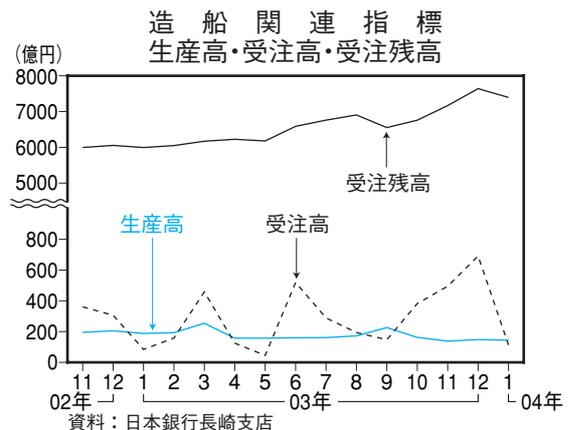
〈2月〉生産面では、大手・中堅造船が3年以上の受注量を確保し高操業を維持、重電機械は低操業ながら原動機は受注持ち直しから操業上向き、電子部品はデジタル家電等の需要増から高操業続く。また、大口電力使用量は持ち直し傾向続く。

一方、需要面では、公共工事請負金額、新設住宅着工戸数はともに前年割れと低調。個人消費では、大型店売上が概ね前年並み、乗用車販売は前年割れ続く（軽乗用車は好調）、観光でも主要施設の入場者・宿泊者数とも低調。雇用面では有効求人倍率の改善が足踏みし倒産件数もこのところ前年を上回るなど、厳しい雇用情勢が続く。

### 造船 大手・中堅は高操業

大手・中堅造船はタンカーや大型フェリーの建造に加え、バラ積み船の連続建造により高操業を維持。受注面では新規受注が堅調に推移するなど、依然として高水準の受注残を確保している。

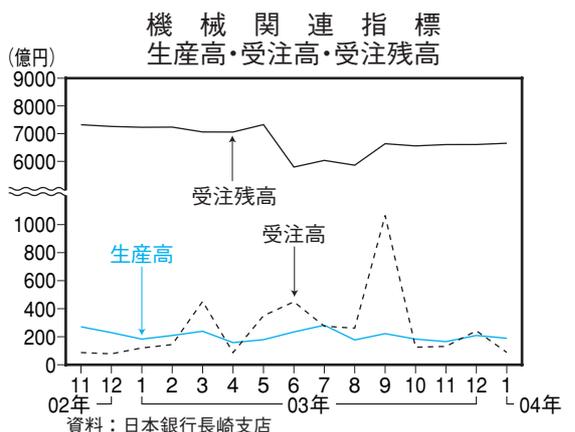
地場中小造船では、新造、修繕ともに新規受注が低迷し、低水準の操業となっている。なお、工場を閉鎖していた長栄造船の設備を福岡造船（福岡市）が買収。3月から操業を開始し、1隻目のケミカルタンカー建造に着手している。



### 機械 電子部品は高操業

重電機械では、原動機は依然として低操業ながらも、受注面では海外の大型発電プラントの引き合いが増加するなど明るい兆しがみられる。大・中型モーター、制御システムは国内需要の回復がみられず依然低操業。発電機は国内、北米向けとも受注の回復が見られず、受注残は減少している。

電子部品では、シリコンウエハーがデジタル家電等の需要増に支えられ高操業となっている。また、ICの生産は高水準を維持している。

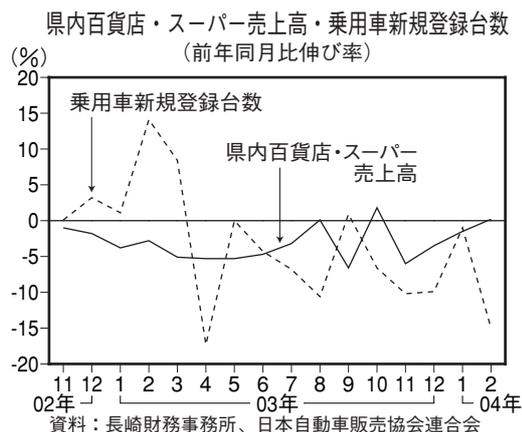


## 小売商況 大型店売上高、4カ月振りのプラス

2月の小売商況をみると、閏年により営業日数が昨年より1日多かったことなどから大型店売上高はプラスに転じた。また、乗用車販売は普通車と軽乗用車が前年を上回ったが、小型車は前年割れが続いている。

**大型店売上高**（百貨店5店、スーパー68店）は116億円、店舗調整前（単純合計比較）で前年並み、店舗調整後（同一店舗比較）で0.2%増と4カ月振りに前年を上回った。このうち百貨店は、ギフト等が好調だった食料品や雑貨で前年を上回ったものの、主力の衣料品の動きが鈍く、全体で2.0%減となった。一方、スーパーは主力の食料品や衣料品、身の回り品などで前年を上回ったことから、店舗調整前で0.8%増、店舗調整後で1.0%増とプラスに転じた。

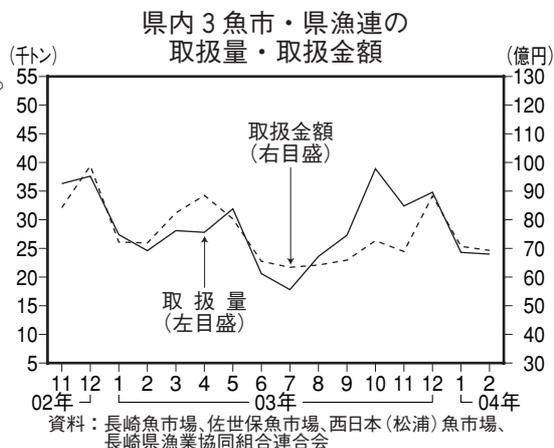
乗用車販売台数をみると、2月の**新規登録台数**（除く軽）は2,214台、前年同月比15.0%減と5カ月連続で前年を下回った。このうち普通車は18.1%増と好調に推移しているものの、小型車は24.9%減と低迷が続いている。一方、軽乗用車販売台数（長崎県軽自動車販売店協会調べ）は2,078台、2.3%増と6カ月連続で前年を上回った。



## 水産 量価とも前年割れが続く

2月の県内3魚市と県漁連の取扱状況をみると、**取扱量**は2万4千トンで前年同月比600トン、2.4%の減少。**取扱金額**は69億3千万円で同2億6千万円、3.7%減少した。

平成15年度県内産（対馬除く）真珠の出荷状況（共販実績）は、生産面ではほぼ前年並みながら、**数量**は654貫で前年比4.8%の減少。上質ものを中心に単価が大幅に下がり、**金額**は15億円で31.8%の減少となった。



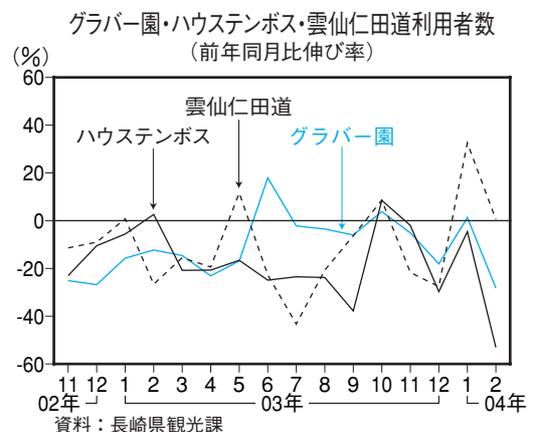
## 観光 主要施設入場者・宿泊者数とも低調

2月の県内観光をみると、閏年で昨年より日曜が1日増となったものの、長崎ランタンフェスティバルの開催時期が1月（昨年は2月）になった影響などもあって、主要施設の入場者数、宿泊客数ともに低調だった。

個別にみると、**主要観光施設等**（13施設）の入場者数は334千人、前年同月比27.1%減だったが、長崎、佐世保の主要3施設を除く10施設は前年を上回った。県南地区ではグラバー園が28.2%減、長崎原爆資料館も5.8%減となったが、島原半島では島原城が7.1%増と5カ月連続増、雲仙仁田道は0.5%増と前年並み。また、県北地区では西海パールシーリゾートがイベント効果（カキ祭り）もあって32.9%の大幅増、平戸城も15.8%増となったが、ハウステンボスは昨年の県民無料招待の反動もあって53.1%減だった。離島地区では壱岐・原の辻展示館が56.0%増など揃って前年を上回った。

次に、**県内主要宿泊施設**（51社、日本銀行長崎支店調べ）の宿泊客数をみると、2月は160千人と前年同月比7.8%減、うち長崎市内はランタン開催時期の関係などから53千人、14.0%減となった。また、島原半島では雲仙地区が14.2%減と低調、小浜地区は3.8%増と前年を上回った（各観光協会調べ）。

長崎市ではこの4月から観光客減少に歯止めをかけるべく、歴史文化博物館など大型施設が完成する2006年までの3年間で「まち歩きが楽しくなる仕組み・仕掛けづくり」「新しい楽しみ方の情報発信」を進める観光2006アクションプラン推進事業に着手した。



## 縫製・繊維 稼働状況は前年比やや低下、収益面でも依然低迷

県内縫製各社の3月の動きをみると、繁忙期に入ったこともあり、前月対比では稼働状況は好転しているが、前年同月と比較すると紳士服、婦人服、肌着など全体での操業度はやや低下している。また、受注状況は、当面の受注にとどまっており、6月以降の先行きは不透明、さらに工賃単価は年々低下気味で、収益面では依然低迷している。

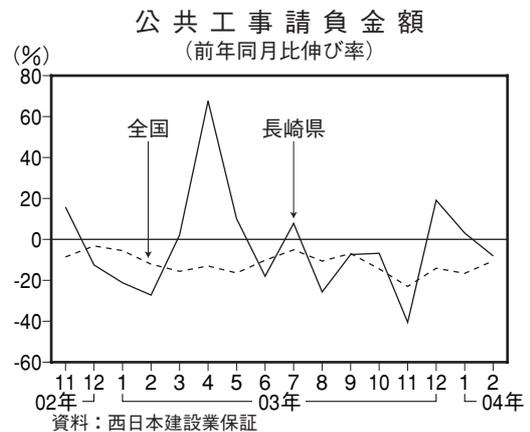
## 公共工事 請負件数、金額とも減少

2月の県内公共工事（西日本建設業保証取扱分）をみると、**請負件数**は407件（前年同月比18.6%減）、**請負金額**は139億円（8.1%減）で、請負件数、金額とも減少した。

主要発注者別の**請負金額**をみると、「国」が16億円（12.8%増）、「県」が74億円（6.9%減）、「市町村」が45億円（9.3%減）で、「国」は増加したが、「県」と「市町村」は減少した。

地区別では、長崎地区（44億円、36.9%増）、下五島地区（9億円、194.3%増）、上五島地区（4億円、16.0%増）は増加したが、県北地区（27億円、17.7%減）、対馬地区（16億円、15.5%減）、諫早地区（13億円、44.7%減）など多くの地区で減少した。

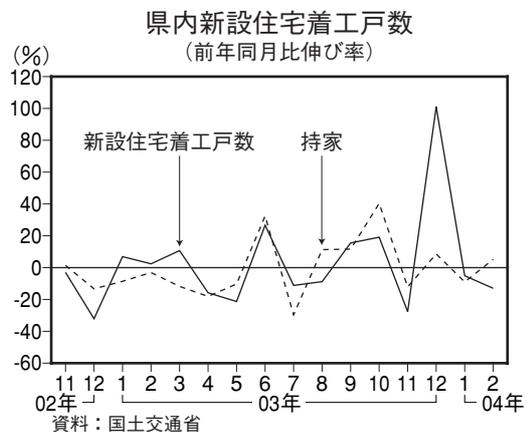
同月の主たる大型工事は、長崎県発注の県道奥ノ平時津線橋梁整備工事（6億円）、九州地方整備局発注の佐世保港防波堤災害復旧工事（5億円）および本河内橋上部工工事（5億円）など。



## 住宅建設 着工戸数は2カ月連続の減少

2月の**新設住宅着工戸数**は、627戸（前年同月比13.0%減）で2カ月連続して減少した。利用区分別の内訳をみると、持家301戸（5.2%増）、貸家303戸（5.6%増）、分譲22戸（81.2%減 [うちマンションはゼロ]）で、持家と貸家は増加したが、分譲は大幅に減少した。

市郡別（県建築課調べ）では、佐世保市（273戸、237.0%増）などは増加したが、長崎市（89戸、51.9%減）、西彼杵郡（58戸、31.8%減）、大村市（45戸、65.4%減）などは減少した。



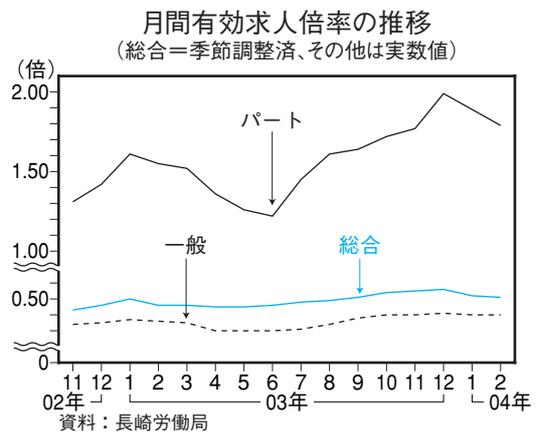
## 雇 用 厳しい状況続く

2月の県内有効求人倍率（季節調整済）は、前月より0.01ポイント低下し0.51倍（前年同月比0.06ポイント増）となった。全国平均0.77倍と比べると0.26ポイントも下回っており依然厳しい状況が続いている。

新規求人数は、7,134人（2.4%増）で20カ月連続して前年を上回った。形態別にみると、一般求人（0.7%減）は減少し、パート求人（7.7%増）は増加した。産業別にみると、サービス業（19.1%増）などは増加したが、建設業（29.6%減）、製造業（7.1%減）、卸売・小売業・飲食店（4.1%減）などは減少した。

また、有効求人数は、17,854人（7.6%増）で18カ月連続して前年を上回り、一般求人（5.3%増）、パート求人（12.0%増）とも増加した。

一方、新規求職者数は、8,553人（7.1%減）で2カ月連続して減少し、形態別では、一般求職者（7.0%減）、パート求職者（7.8%減）とも減少した。有効求職者数は、32,095人（4.5%減）で17カ月連続して前年を下回った。



## 企業倒産

3月の県内の企業倒産件数は13件と前年同月比4件増、負債総額は負債額が10億円を超える大型倒産が発生したため全体で27億円となった。倒産原因は、「業績不振」が10件、「連鎖倒産」が2件、「放漫経営」が1件。

なお、2003年度の企業倒産件数は137件と前年を13.2%上回ったものの、負債総額は1,031億円と前年を64.3%下回った。

